

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	niconico福津			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～	令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数)	32
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者満足度の高さ 「安心して通所できている」「通所を楽しみにしている」といった意見が多く、保護者・児童ともに高い満足度が得られている。	日々の情報共有の徹底 写真や文面での情報共有や送迎時のやり取りを通じて、保護者との共通理解を深めている。	支援の質の均一化 職員間のケース共有や研修を強化し、誰が対応しても一定の質を保てる体制を構築する。
2	チームでの支援体制 朝礼や会議、振り返り等を通じて職員間の情報共有が徹底されており、共通理解のもと支援が行われている。	支援の質の担保 朝礼・振り返り・会議を通じて児童の状況や支援内容を共有し、チームで支援の質を担保している。	情報共有の質向上 動画等の活用を含め、より分かりやすい情報発信の方法を検討する。
3	職員育成と組織力 外部研修や法人内研修の機会を確保し、受講内容の共有を行うことで、職員全体のスキル向上につなげている。	自己決定支援の実施 活動や余暇時間に選択の機会を設けることで、自己決定力の育成につながる支援を行っている。	保護者支援の充実 面談や日々のやり取りをさらに充実させ、保護者への助言や支援の質の向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の質のばらつき 職員によって支援の質や対応に差があると感じられる部分がある。	職員の経験値の差 職員ごとの経験や理解度の差により、支援の質にばらつきが生じている。	職員教育の強化 研修やケース共有を通じて専門性の向上を図り、支援の質の均一化を進める。
2	家族支援の不足 保護者同士やきょうだい同士の交流機会や、家族支援プログラムの実施ができていない。	安全面への配慮 児童の特性や安全面を優先することで、地域交流や外部との関わりに制限が生じている。	保護者ニーズの把握 アンケートや面談を通じてニーズを把握し、家族支援や交流機会の創出につなげる。
3	地域との関わりの不足 地域交流や外部との関わりの機会が十分に確保できていない。	ニーズ把握の不足 保護者のニーズを十分に把握しきれておらず、家族支援の展開に至っていない。	段階的な地域連携の推進 児童の状況や安全面に配慮しながら、無理のない範囲で地域との関わりを増やしていく。